(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3637201号
(P3637201)
(45)発行日　平成17年4月13日(2005.4.13)　(24)登録日　平成17年1月14日(2005.1.14)

(51)Int.Cl.[7]　F I
F24F 7/06　F24F 7/06 101B

請求項の数 8　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願平10-89954
(22)出願日　平成10年4月2日(1998.4.2)
(65)公開番号　特開平11-287491
(43)公開日　平成11年10月19日(1999.10.19)
審査請求日　平成14年3月12日(2002.3.12)

(73)特許権者　000006242
松下エコシステムズ株式会社
愛知県春日井市鷹来町字下仲田４０１７番
(74)代理人　100097445
弁理士　岩橋　文雄
(74)代理人　100103355
弁理士　坂口　智康
(74)代理人　100109667
弁理士　内藤　浩樹
(72)発明者　森本　伸行
大阪府大阪市城東区今福西６丁目２番６１号　松下精工株式会社内
(72)発明者　岡本　仁伸
大阪府大阪市城東区今福西６丁目２番６１号　松下精工株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】レンジフード

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記チャンバーボックスの前記前面板と前記下面板を水平面を介して連設したことを特徴とするレンジフード。

【請求項２】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記トップフードの前記側板と前記チャンバーボックスの前記側面吸い込み口との間に形成される側面側捕集空間の幅を、前記チャンバーボックスの前記前面吸い込み口との間に形成される前面側捕集空間の幅より大きく形成したことを特徴とす

るレンジフード。

【請求項３】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記チャンバーボックスに設けられる前記前面吸い込み口および前記側面吸い込み口より遠ざかった前記チャンバーボックス内に両方の吸い込み口より吸い込まれた気流をろ過するフィルターを設けたことを特徴とするレンジフード。

【請求項４】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記チャンバーボックスの前記前面吸い込み口を前後２列に配置したコンロの前面側のコンロの中心より前方に配設したことを特徴とするレンジフード。

【請求項５】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記トップフードの前記前板の下端部より前記チャンバーボックスに設けられる前記前面吸い込み口を下方に配設したことを特徴とするレンジフード。

【請求項６】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記チャンバーボックスに設けられる前記側面吸い込み口を前記トップフードの前記側板の下端部より上方に配設したことを特徴とするレンジフード。

【請求項７】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記送風機ユニットと前記トップフードを分割自在としたことを特徴とするレンジフード。

【請求項８】

前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほ

ぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードであって、前記トップフードの前記前板を含む前方部分を前後方向に移動自在に形成したことを特徴とするレンジフード。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、調理時に発生する廃ガス、油煙、臭気などを確実に屋外へ排出するレンジフードに関する。

【０００２】

【従来の技術】

近年、レンジフードの普及に伴い、捕集性、掃除性などのより優れたレンジフードの要望が高まってきている。

従来、この種のレンジフードの一例として実開平４－９５２４２号公報に記載されているものが知られている。以下その構成について図１２および図１３を参照しながら説明する。

【０００３】

図に示すように、側面形状が略三角形をしたフード本体１０１の前方開口部の下半部に案内板１０２を取り付け、その案内板１０２上端と天板１０１ａとにわたりフィルター１０３を取り付けると共にそれらで区画された内部に送風機ユニット１０４を内蔵し、案内板１０２の上部から天板１０１ａにわたりフィルター１０３の前方を被い左右側板１０１ｂと所定の吸い込み間隙１０５を区画形成する遮蔽板１０６を着脱自在に取り付けていた。

【０００４】

【発明が解決しようとする課題】

このような従来のレンジフードでは、少量であれば遮蔽板１０６に当たった油煙は、左右側板１０１ｂと所定の吸い込み間隙１０５より吸い込まれるが、一度に多量の油煙が発生する際には、油煙を溜めておくための空間がないため、油煙は案内板１０２に当たることなく本体１０１の前部や、左右から大気中に拡散してしまうという問題があった。

【０００５】

本発明は、上記課題を解決するもので、一度に多量の油煙が発生しても大気中に拡散することなく捕集することができ、また、掃除性を向上することができ、また、梱包才数の低減を図ることができるレンジフードを提供することを目的とする。

【０００６】

【課題を解決するための手段】

本発明のレンジフードにおいては、前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けた構成としたものである。

【０００７】

この本発明によれば、一度に多量の油煙が発生しても大気中に拡散することなく捕集することができるレンジフードを提供することができる。

【０００８】

【発明の実施の形態】

本発明の請求項１に記載の発明は、前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニ

ットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部に連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたレンジフードの構成としたことにより、調理時に発生し、上昇気流にのって上昇していく油煙、排ガスなどは、チャアンバーボックスの水平面に衝突し、速度を落として四方に分散し、前面吸い込み口および側面吸い込み口に吸い込まれ、一部はトップフードとチャンバーボックスとの間の捕集空間に捕集されたのち、前面吸い込み口および側面吸い込み口よりチャンバーボックス内に吸い込まれ、排気口より屋外へ排気されることとなり、一度に多量の油煙が発生しても大気中に拡散することなく捕集することができる。

【０００９】

以下、本発明の実施の形態について、図１～図１１を参照しながら説明する。（実施の形態１）

図１～図３に示すように、前面に吸気口１を有し、他面に排気口２を形成し、内部に吸気口１と排気口２に連通する送風機３を設けた箱状の送風機ユニット４と、送風機ユニット４の前方に天板５とほぼ三角形の側板６および前板７とからなるトップフード８を連設し、トップフード８の内部に吸気口１を囲むように前面板９と側面板１０および、前面板９に向かうに従がい高さが高くなるように傾斜した下面板１１を設け、トップフード８の内部との間に捕集空間１２を形成するように脱着自在に設けられるチャンバーボックス１３を設け、チャンバーボックス１３の前面板９と側面板１０に内部に連通する前面吸い込み口１４と側面吸い込み口１５を設け、前面吸い込み口１４と側面吸い込み口１５にはフィルター１６を取り付け、トップフード８の前板７には送風機３の運転を制御するスイッチ１７を設け、送風機ユニット４の下面には調理台１８を照射するランプ１９を設け、排気口２には外気侵入防止用のダンパー２０を設け構成する。

【００１０】

上記の構成において、レンジを運転すると、調理時に発生する油煙や排ガスなどは上昇気流により上昇し、チャンバーボックス１３の下面板１１に当り、下面板１１の傾斜に沿い上昇し、前面吸い込み口１４および側面吸い込み口１５によりチャンバーボックス１３内に吸い込まれる。

【００１１】

そして、チャンバーボックス１３外方に逃げようとする一部の油煙や排ガスは、チャンバーボックス１３とトップフード８間に形成された捕集空間１２に一旦捕集されたのち、前面吸い込み口１４および側面吸い込み口１５よりチャンバーボックス１３内にフィルター１６を介して吸い込まれ、チャンバーボックス１３内に吸い込まれたろ過空気などは吸気口１を通り送風機３により排気口２を経て屋外に排気されることとなる。

【００１２】

また、調理時に発生する油煙等がチャンバーボックス１３およびトップフード８に付着し掃除を行う必要があるときには、チャンバーボックス１３を取り外すことによりチャンバーボックス１３およびトップフード８の掃除を行うことができる。

【００１３】

このように本発明の実施の形態１のレンジフードによれば、送風機ユニット４の前方に設けられるトップフード８の内面との間に捕集空間１２が形成されるように前面吸い込み口１４を有した前面板９と側面吸い込み口１５を有した側面板１０および下面板１１よりなるチャンバーボックス１３を設けたので、調理時に発生する大量の油煙や排ガスは直接前面吸い込み口１４および側面吸い込み口１５に吸い込まれ、チャンバーボックス１３外に逃げようとする油煙や排ガスは捕集空間１２に捕集されたのち前面吸い込み口１４および側面吸い込み口１５に吸い込まれ吸気されるので、レンジフードの外方に油煙や排ガスが放散されることが防止されることとなる。

【００１４】

また、トップフード８内チャンバーボックス１３を着脱自在に設けたので、調理後の油汚れがひどいときには、チャンバーボックス１３を取り外すことにより、チャンバーボックス１３およびトップフード８の掃除が容易にできることとなる。　また、チャンバーボックス１３の下面板１１を前面板９に向かうに従がい高さが高くなるように傾斜したので、油煙や、排ガスは四方に拡散することなく、チャンバーボックス１３に沿い上昇し、前面吸い込み口１４および側面吸い込み口１５より吸い込まれ捕集効率が向上することとなる。

【００１５】

（実施の形態２）

図４に示すように、トップフード８内部天面に設けるチャンバーボックス１３Ａの前面板９と下面板１１を水平面２１を介して連設する。

【００１６】

上記の構成において、調理時に発生する油煙は、チャンバーボックス１３Ａの水平面２１に衝突し、速度を落として、四方に分散するが、チャンバーボックス１３Ａに水平面２１を設けることによって、正面方向の吸い込み風速が上昇し、正面からの油煙の漏れを減少させることができることとなる。

【００１７】

このように、本発明の実施の形態２のレンジフードによれば、トップフード８内部天面に設けるチャンバーボックス１３Ａの前面板９と下面板１１を水平面２１を介して連設したことにより、調理時に発生する油煙は、チャンバーボックス１３Ａの水平面２１に衝突し、速度を落として、四方に分散するが、チャンバーボックス１３Ａに水平面２１を設けることによって、正面方向の吸い込み風速が上昇し、正面からの油煙の漏れを減少させることができることとなる。

【００１８】

（実施の形態３）

図５に示すように、トップフード８の側板６とチャンバーボックス１３Ｂの側面吸い込み口１５との間に形成される側面側捕集空間２２の幅をチャンバーボックス１３Ｂの前面吸い込み口１４との間に形成される前面側捕集空間２３の幅より大きく形成した構成とする。

【００１９】

上記の構成において、レンジフードが運転されると、調理時に発生する油煙や排ガスなどは、チャンバーボックス１３Ｂの前面吸い込み口１４および側面吸い込み口１５によりチャンバーボックス１３Ｂ内に吸い込まれるが、一部の油煙や排ガスは前面側捕集空間２３および側面側捕集空間２２に捕集される。このとき、側面側捕集空間２２の幅は前面側捕集空間２３の幅より大きく形成されたので、側面側捕集空間２２の幅が大きくなり空間容積が大きくなることにより油煙や排ガスを大量に捕集できることとなる。

【００２０】

このように、本発明の実施の形態３のレンジフードによれば、トップフード８とチャンバーボックス１３Ｂ間に形成される側面側捕集空間２２の幅を前面側捕集空間２３の幅より大きく形成されているので、側面側捕集空間２２の幅が大きくなり空間容積が大きくなることにより油煙や排ガスを大量に捕集することができることとなる。

【００２１】

（実施の形態４）

図６に示すように、チャンバーボックス１３Ｃに設けられる前面吸い込み口１４Ａおよび側面吸い込み口１５Ａより遠ざかったチャンバーボックス１３Ｃ内に前面吸い込み口１４Ａと側面吸い込み口１５Ａの両方の吸い込み口より吸い込まれた気流をろ過するフィルター１６Ａを設けた構成とする。

【００２２】

上記の構成により、フィルター１６Ａ付近の均一な風速ベクトルが、フィルター１６Ａから吸い込み口までに距離のへだたりがあるため前面方向の風速ベクトル２４、または、側

面方向の風速ベクトル２５というようにはっきりし、それだけ前面吸い込み口１４Ａと側面吸い込み口１５Ａの風速が上がり捕集も向上することとなる。

【００２３】

このように、前面吸い込み口１４Ａと側面吸い込み口１５Ａより遠ざかったチャンバーボックス１３Ｃ内部に設けることにより、フィルター１６Ａ部付近の均一な風速ベクトルが、フィルター１６Ａから吸い込み口までの距離がへだたるため正面方向の風速ベクトル２４、または、側面方向の風速ベクトル２５というようにはっきりし、すなわちそれだけ風速が上がり捕集効率も向上することとなる。

【００２４】

（実施の形態５）

図７に示すように、チャンバーボックス１３Ｄの前面吸い込み口１４Ｂを、前後２列に配置した前側のコンロ２６の中心より前方に位置させた構成とする。

【００２５】

上記の構成により、調理時に発生する油煙は、コンロ２６の中心より前方にチャンバーボックス１３Ｄの前面吸い込み口１４Ｂがある分だけ多くチャンバーボックス１３Ｄに衝突することになり、速度が落ちる油煙の量、すなわち、捕集空間１２に溜まる油煙の量が増えることとなる。

【００２６】

このように、チャンバーボックス１３Ｄの前面吸い込み口１４Ｂを、前後２列に配置した前側のコンロ２６の中心より前方に位置させることにより、調理時に発生する油煙は、コンロ２６の中心より前方にチャンバーボックス１３Ｄの前面吸い込み口１４Ｂがある分だけ多くチャンバーボックス１３Ｄに衝突することになり、速度が落ちる油煙の量、すなわち、捕集空間１２に溜まる油煙の量が増え、その分捕集の効率が向上することとなる。

【００２７】

（実施の形態６）

図８に示すように、チャンバーボックス１３Ｅの前面吸い込み口１４Ｃをトップフード８の前板７の下端部よりＡ寸法下方に位置させる。

【００２８】

上記の構成により、チャンバーボックス１３Ｅの前面吸い込み口１４Ｃの吸い込み方向に障害が少なくなる。

【００２９】

このように、チャンバーボックス１３Ｅの前面吸い込み口１４Ｃをトップフード８の前板７の下端部より下方に位置させることにより、チャンバーボックス１３Ｅの前面吸い込み口１４Ｃの吸い込み方向に障害が少なくなり、正面方向の吸い込みベクトルが大きくなり、正面からの油煙の漏れが少なくなることとなる。

【００３０】

（実施の形態７）

図９に示すように、チャンバーボックス１３Ｆの側面吸い込み口１５Ｂをトップフード８の前板７の下端よりＢ寸法上方に位置させる。

【００３１】

上記の構成により、側面からの吸い込みの方向にトップフード８の前板７と同一線上の側板６部分があるため、吸い込みのベクトルは上昇してきた油煙が捕集空間１２の奥に流れた後に側部の側面吸い込み口１５Ｂに吸い込まれるというように曲げられることとなる。

【００３２】

このように、チャンバーボックス１３Ｆの側面吸い込み口１５Ｂをトップフード８の側板６部分の下端より上方に位置させることにより、側面からの吸い込みの方向にトップフード８の側板６があるため、吸い込みのベクトルは上昇してきた油煙が捕集空間１２の奥に流れた後に側面吸い込み口１５Ｂに吸い込まれるというように曲げられるため、より油煙が捕集空間１２に溜まることとなり、捕集の効率が向上することとなる。

【００３３】

（実施の形態８）
図１０に示すように、送風機ユニット４Ａとトップフード８Ａを分割自在とした構成とする。
【００３４】
上記の構成により、施工の際は、まず送風機ユニット４Ａを壁面に固定し、その後トップフード８Ａを送風機ユニット４Ａに固定することとなるため、一つ一つの重量が軽減され、一人でも用意に施工することはできることとなる。
【００３５】
このように、送風機ユニット４Ａとトップフード８Ａを分割自在とすることにより、施工の際は、まず送風機ユニット４Ａを壁面に固定し、その後トップフード８Ａを送風機ユニット４Ａに固定することとなるため、一つ一つの重量が軽減され、一人でも容易に施工することができ、また、梱包時の才数の低減も図ることができる。
【００３６】
（実施の形態９）
図１１に示すように、トップフード８Ｂの前板７を含む前方部分８ａを前後方向にＣ寸法移動自在とする。
【００３７】
上記の構成により、調理台１８の奥行が各家庭によって異なる場合でも前方部分８ａを前方に移動することによりトップフード８Ｂの面積が大きくなり、一つの機種でまかなうことができることとなる。
【００３８】
このように、トップフード８Ｂの前板７を含む前方部分８ａを前後方向に移動自在とすることにより、調理台１８の奥行が各家庭によって異なる場合でも一つの機種でまかなうことができ、多数の機種を興す必要がなくなることとなる。
【００３９】
【発明の効果】
前面に吸気口を有し、他面に排気口を形成し、内部に前記吸気口と排気口に連通する送風機を設けた箱状の送風機ユニットと、この送風機ユニットの前方に連設される天板とほぼ三角形の側板および前板とからなるトップフードと、このトップフードの内部に前記吸気口を囲むように前面板と側面板および下面板を設けた形状で、前記トップフードの内面との間に捕集空間を形成し設けられるチャンバーボックスとを備え、前記チャンバーボックスの前面板と側面板に内部と連通する前面吸い込み口および側面吸い込み口を設けたので、調理時に発生した油煙、排ガスなどが四方に拡散されることなく屋外に排出することができるレンジフードを提供できる。
【００４０】
また、トップフード内にチャンバースボックスを着脱自在に設けたので、調理後の油汚れがひどいときには、チャンバーボックスを取り外して容易に掃除をすることができる。
【００４１】
また、チャンバーボックスの下面板を前面板に向かうに従い高さが高くなるように傾斜したので、油煙や、排ガスの流れがスムーズになり、捕集効率を向上することができる。
【００４２】
また、チャンバーボックスの前面板と下面板を水平面を介して連通したので、前方からの油煙や、排ガスの漏れを減少させることができる。
【００４３】
また、トップフードの側板とチャンバーボックスの側面吸い込み口との間に形成される側面側捕集空間の幅を、チャンバーボックスの前面吸い込み口との間に形成される前面側捕集空間の幅より大きく形成したので、捕集空間容積が大きくなり油煙や、排ガスを多く捕集することができる。
【００４４】
また、チャンバーボックスに設けられる前面吸い込み口および側面吸い込み口より遠ざか

ったチャンバーボックス内に両方の吸い込み口より吸い込まれた気流をろ過するフィルターを設けたので、各吸い込み口の風速ベクトルが区別され、風速が高まり捕集効率が向上する。

【００４５】

また、チャンバーボックスの前面吸い込み口を前後２列に配置したコンロの前面側のコンロの中心より前方に配設したので、調理時に発生する油煙や、排ガスはチャンバーボックスに衝突し、捕集空間に捕集される油煙や、排ガスが多くなり捕集効率が向上することとなる。

【００４６】

また、トップフードの前板の下端部よりチャンバーボックスに設けられる前面吸い込み口を下方に配設したので、前方側の吸い込みベクトルが大きくなり、前方からの油煙や、排ガスの漏れを少なくすることができる。

【００４７】

また、チャンバーボックスに設けられる側面吸い込み口をトップフードの前板の下端部より上方に配設したので、吸い込みのベクトルは上昇してきた油煙や、排ガスが捕集空間の奥に流れた後に側面吸い込み口に吸い込まれるように曲げられ、より油煙や、排ガスが捕集空間に溜まることとなり、捕集効率が向上する。

【００４８】

また、送風機ユニットとトップフードを分割自在としたので、一つ一つの重量が軽減され、一人でも容易に施工することができ、また、梱包才数を低減することができる。

【００４９】

また、トップフードの前板を含む前方部分を前後方向に移動自在に形成したので、調理台の奥行寸法が各家庭において異なる場合でも、一つの機種で流用することができ、奥行寸法毎の機種を製造する必要がなくなる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の実施の形態１のレンジフードの構成を示す断面図

【図２】同レンジフードの構成を示す斜視図

【図３】同レンジフードのチャンバーボックス取り外し時の状態を示す斜視図

【図４】本発明の実施の形態２のレンジフードの構成を示す断面図

【図５】本発明の実施の形態３のレンジフードの構成を示す斜視図

【図６】本発明の実施の形態４のレンジフードの構成を示す斜視図

【図７】本発明の実施の形態５のレンジフードとコンロの関係を示す側面図

【図８】本発明の実施の形態６のレンジフードの構成を示す部分断面図

【図９】本発明の実施の形態７のレンジフードの構成を示す部分断面図

【図１０】本発明の実施の形態８のレンジフードの分割時の状態を示す側面図

【図１１】本発明の実施の形態９のレンジフードの構成を示す側面図

【図１２】従来のレンジフードの構成を示す断面図

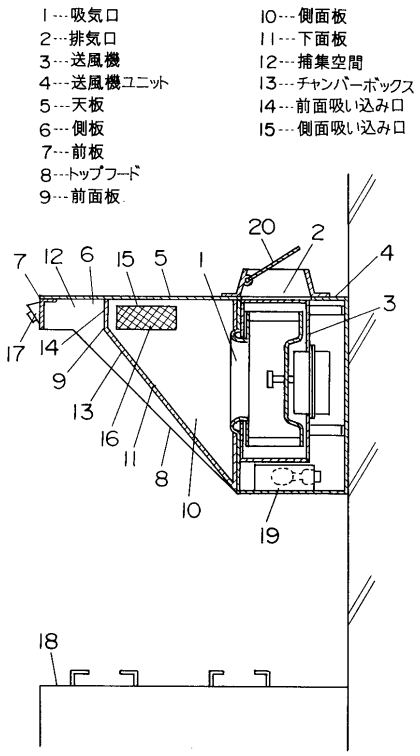
【図１３】同レンジフードの構成を示す部分断面図

【符号の説明】

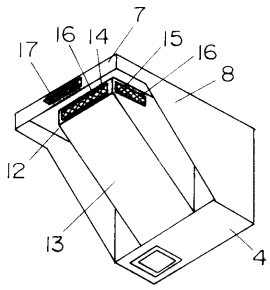
１　吸気口
２　排気口
３　送風機
４　送風機ユニット
４Ａ　送風機ユニット
５　天板
６　側板
７　前板
８　トップフード
８Ａ　トップフード
８ａ　前方部分

９　　前面板
１０　　側面板
１１　　下面板
１２　　捕集空間
１３　　チャンバーボックス
１３Ａ　チャンバーボックス
１３Ｂ　チャンバーボックス
１３Ｃ　チャンバーボックス
１３Ｄ　チャンバーボックス
１３Ｅ　チャンバーボックス
１３Ｆ　チャンバーボックス
１４　　前面吸い込み口
１４Ａ　前面吸い込み口
１４Ｂ　前面吸い込み口
１４Ｃ　前面吸い込み口
１５　　側面吸い込み口
１５Ａ　側面吸い込み口
１５Ｂ　側面吸い込み口
１６Ａ　フィルター
２１　　水平面
２２　　側面側捕集空間
２３　　前面側捕集空間
２６　　コンロ

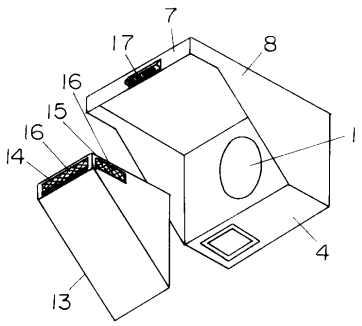
【図１】



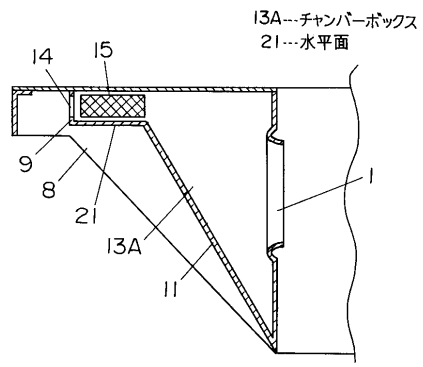
【図２】



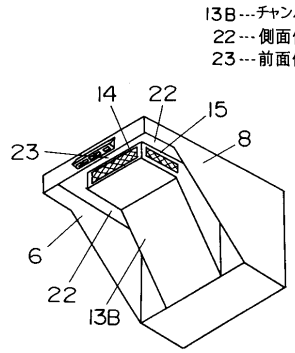
【図３】



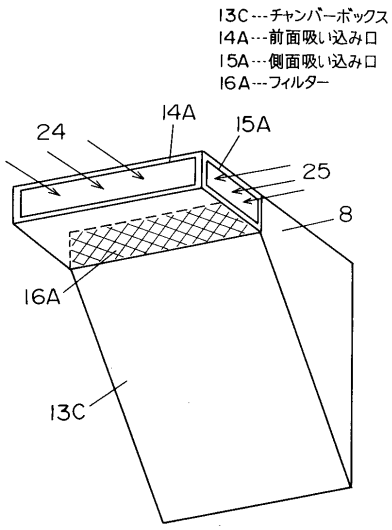
【図４】



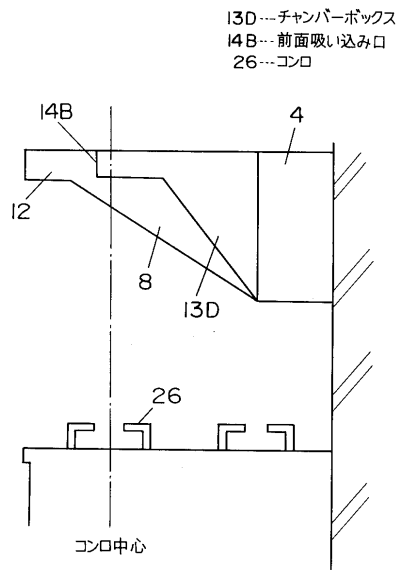
【図５】



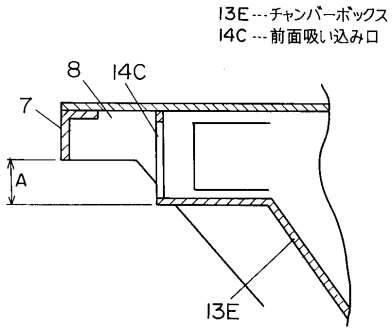
【図６】



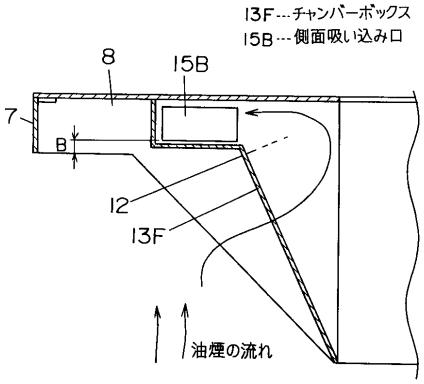
【図７】



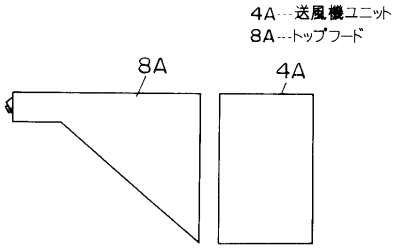
【図８】



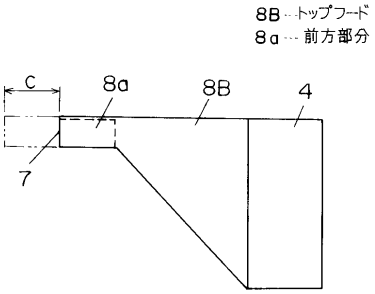
【図９】



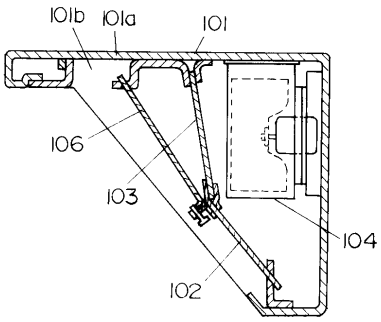
【図１０】



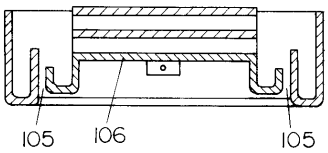
【図１１】



【図１２】



【図１３】



フロントページの続き

審査官　大熊　雄治

(56)参考文献　特開平０８－１７０８４５（ＪＰ，Ａ）
実開平０２－１４４３４６（ＪＰ，Ｕ）
実開平０４－０９５２４２（ＪＰ，Ｕ）
特開平０７－０４９１３８（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－２７３７８９（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－２８０６２２（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－３１８１２４（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
F24F　7/06　101